

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ビジネススキル2	
科目基礎情報					
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	各回 必要に応じてレジュメ・資料を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	細川孝幸		実務経験の有無・職種	有（映像業務全般）	
学習目的					
この科目を受講する学生は、映像制作やテレビ放送に関してより映像の制作現場に特化した知識・技術のノウハウを得ることを目的とする。具体的には、提携企業の方を講師として、実務を想定したプリプロダクション、プロダクション、ポストプロダクションについて現場知識に基づいた授業を構成することで、カメラ、映像データ管理、送出業務、演出などに関する知識を深め、映像業界の現況知識を深めてほしい。					
到達目標					
この科目では、2年生の後期に学ぶ内容として、より「現場目線」を主なテーマとする。そのため、これまでの座学・実習で学んだ内容の集大成となるような授業構成で展開し、基礎を活用した応用的発想を得ることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、プロジェクトと資料を主に使用する。授業展開では、それまでの授業内容をおさらいしながら、より知識を深められるように工夫をしていく。				
注意点	ノートは各自用意し、必ず授業内容のメモをとる。講師自身が現場の人であるため、社会に出る前に映像制作に関するあらゆる質問をしてほしい。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	レポート	80%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、受講態度などによって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	主な実習内容		主な各回の到達目標		
1回	放送マスター①		送出業務、マスターとは何かを理解する①		
2回	放送マスター②		送出業務、マスターとは何かを理解する②		
3回	放送マスター③		マスター業務の具体的な作業について理解する①		
4回	放送マスター④		マスター業務の具体的な作業について理解する②		
5回	これからのテレビ技術①		将来的な映像技術の展望を概説し、自分たちの将来像を思い描く①		
6回	これからのテレビ技術②		将来的な映像技術の展望を概説し、自分たちの将来像を思い描く②		
7回	これからの映像技術①		テレビからweb、映像にすそ野が広がる中、自分たちの将来像を思い描く①		
8回	これからの映像技術②		テレビからweb、映像にすそ野が広がる中、自分たちの将来像を思い描く②		
9回	演出方法①		テレビにおける、映像演出について応用と理解を深める①		
10回	演出方法②		テレビにおける、映像演出について応用と理解を深める②		
11回	演出方法③		テレビにおける、映像演出役者、出役への指導と手法について理解を深める①		
12回	演出方法④		テレビにおける、映像演出役者、出役への指導と手法について理解を深める②		
13回	4K,8K放送について		直近技術としての高精細映像技術について理解を深め、就職先での予備知識を得る		
14回	解像度と輝度の違い		4K8Kと、SDR：HDRについて理解を深める		
15回	後期授業まとめ		全体のまとめをする		